

ふるさと歴史アラカルト

吉川経幹の銅像

今から150年前の慶応3(1867)年3月20日、12代岩国領主吉川経幹が39歳で死去しました。経幹は明治維新の際に長州藩を助け、その功績によつて岩国を正式な藩とした人物です。経幹の銅像は岩国にはありませんが、かつては山口市の亀山公園に立てられていました。今回はその銅像について紹介します。

経幹の銅像の建設は、初代内閣総理大臣としても知られる伊藤博文が明治24(1891)年に『贈従一位忠正公并支藩諸公銅像建設趣意書』(山口県文書館蔵)の中で、幕末期の長州藩主毛利敬親(忠正公)と4支藩主(幕末期の長府藩主毛利元周、徳山藩主毛利元蕃、清未藩主毛利元純、岩国藩主吉川経幹)の銅像建設のための募金を呼び掛けたことに始まります。建設の目的は、明治維新における山口県の功績を後世へ受け継ぐためのものでした。

銅像の原型となる塑像の制作を担当したのは彫刻家の長沼守敬です。守敬は『毛利家の銅像』(山口県文書館蔵)

の中で、最初に経幹の像に取り掛かったと記しています。経幹の像を作るに当たっては「経幹がイギリスの艦船に赴いた時、向こうで撮ってくれたという至極怪しげな写真が一枚あるのみで、それを唯一の参考にしたのであるが、細部がわからず甚だ困難をした」と述べており、また、やつて来た吉川家の家令に「似ていない」と言われるなど、現在ほど写真が流通していない時代だからこそその苦勞もあつたようです。

明治32年、東京で銅像は完成し、汽車で山口まで運ばれました。「防長新聞」や「藤田日記」によると、3月18日に銅像が岩国駅を通過する際には、経幹の子で最後の岩国藩主でもあつた吉川経健をはじめ、多くの人々が出迎えたそうです。明治33年4月15日には、5人の銅像の除幕式が山口で盛大に行われ、岩国からも多くの人々が参加しました。

その後、昭和19年に全ての銅像は戦争のために供出され、現在は敬親像のみが再建されています。

岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

※1 吉川家の事務を管理する役

※2 旧岩国藩士藤田傑の日記

▶亀山公園に立っていた吉川経幹の銅像

▶銅像制作の参考となつた写真

銅像の経緯は県メールマガジン「山口きらめーる」(1月27日号)おもしろ山口学にも紹介されています



岩国市 人口・世帯

人口 138,186人 【前月比 - 192人】 男性 65,546人 女性 72,640人

世帯 66,140世帯 【前月比 - 75世帯】 ※外国人人口を含む (平成29年2月1日現在)

交通事故発生件数 1月分事故件数 64件(64件) 死者数 0人(0人) 傷者数 81人(81人)

※高速道路発生分を除く

※()内は平成29年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337